

# とうきょうすくわく プログラム活動報告書

社会福祉法人清涼会 多摩小ばと保育園

2歳児 ひばり組

# テーマ『五感』

## 1. 活動テーマの設定理由

・水遊びを楽しむ中で、熱中症予防のため保冷剤（保育者）を冷凍庫から出す時、その近くにあった氷と一緒に持って行って子どもたちに見せてみたところ、興味を示したことから、五感のサブテーマを「氷」にした。

## 2. 活動スケジュール

【8～9月】 ・氷に触れる、氷が出来る工程を知る、氷を作る

【10～12月】 ・色水作り→氷作り、氷でお絵描き

【1～2月】 ・自然の中で氷が出来るか実験する、氷を食べる（シャーベット作り）

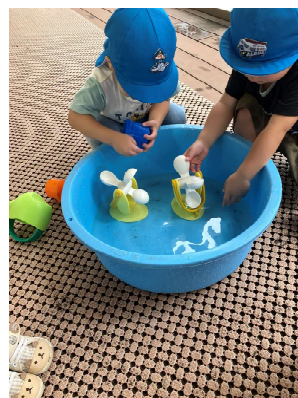
## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

・水あそび用品・製氷器、シリコン型、マヨネーズ容器・スポイト、絵の具・トレイ、バットなど

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

#### ①氷に触れ、氷に興味を示す。



キラキラしている...!



わあ! つめたい~

氷を初めて触った時には、「冷たい」「キラキラしてるね」などの声が聞こえた。「どうやったら氷取れるかな?」と問うと「強くやる」や床に製氷機を打ち付ける子がいた。また、ある子が氷を水につけると溶けていくスピードが早くなることに気がつき「もうなくなっちゃった」「何で早くなくなっちゃうの?」と不思議そうな表情を浮かべながら話していた。用意した氷があっという間になくなると、子どもたちから「もっと氷やりたい」「またやろうね」という声が上がリ、その後の氷の活動へと繋がるきっかけとなった。

## ②氷作りの体験・氷が出来るまでの過程を知る。

子どもたちの目の前で製氷器に水を入れた。「お水が氷になるの？」と不思議そうな表情であった。「どうしたら氷になるかな？」と問いかけた。少し難しかったようで、冷凍庫に入れると氷になることを伝えると「お家にも冷蔵庫あるよ」と言う子もいた。実際に冷凍庫に入れるところも子どもと一緒にいった。家庭ではなかなかできない冷凍庫の冷たさを感じる体験もして、冷凍庫の冷たさに「きゃー冷たい」と目を輝かせていた。

わあ！つめたいね！  
おうちにも、あるよ！



あれ？まだ固まっ  
ていない...



かたまってる...！！



次の日・・・



### ③色水遊び・製氷器に水を入れる体験

色水作りでは、原色を混ぜると紫や緑に変化する様子を見て「赤だったオレンジ、黄のに紫になった」と驚いている姿が見られた。何回か行った後、「青と赤を混ぜたら何色が出来るかな？」と問うと「紫！」と覚えている子がいた。製氷器に入れる体験では、作った色水をマヨネーズの容器に入れてから製氷器へ移す体験をした。「ミルクみたい」「楽しい」と声が上がっていた。

なにいろになるかな？



こぼれないように、そーっと...



#### ④色が付いた氷に触れる・氷でお絵描き

色水で作った色が付いた氷に触れると、「美味しそう」と言う子いた。アイス型の製氷器で出来た氷を持っていた子がタライの中で溶けた色水でお絵描きのように出来る事に気がつき、丸を描いていた。「氷でお絵描きできるかな？」と問うと、「お絵描きやってみたい」と子どもからも声が上がり、その後の氷でお絵描き出来るかに挑戦するきっかけとなった。



みて～！  
てがムラサキになった！



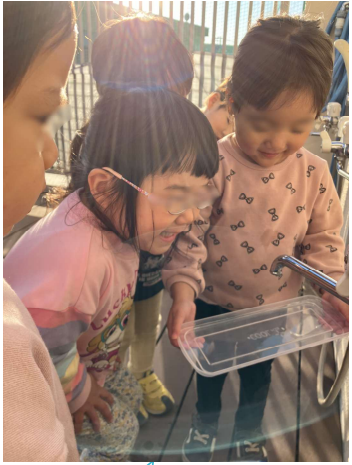
まるがかけたよ！おえかきだ～



子どもたちが描いた画用紙を切り取り、クリスマスのお飾りを作ったり、お雛様の製作に使用した。

## ⑤自然の中で氷作りに挑戦

戸外遊び中、幼児組が園庭のバケツに出来た氷で遊んでおり気になっている様子が見られた。「どうやってできたんだろう？」という声が聞こえた。そこで、翌日が氷点下予報の日があったので、自然の中で氷を作ってみることにした。子どもたちが各々選んだ容器に水を入れると「氷出来るかな？楽しみ～」とワクワクした様子で子ども同士で話していた。「どこに置くとできるかな？」と問いかけると子どもたちなりに置き場所を考えていた。翌日に氷ができていると太陽の光で氷が光ると「きれい」「キラキラしてるね」と声が上がった。



キラキラしてるよ☆



こおりだ！  
なんか、つるつるしてる

こおりにできるかな？  
たのしみだね♪



あれ？  
こおりができてる...？



## ⑥シャーベット作り（氷を食べてみよう）

新しい絵本が届き、日々の遊びの中で子どもたちが見ていた。ある時に「これ、氷と一緒に？」とシャーベットのページに目が留まった子がいた。それをきっかけに「シャーベット作りたい」「食べたいな」という声が上がって作ることにした。



こおりだ！どんどんおおきくなっていく♪



なんで、こおりができないんだろう...？



りんご、オレンジ、ぶどうの三種類の味の中から好きな味を選んで席に座った。ジュースの香りを確かめたり、冷やしたバットを触り冷たさを感じるなどしてからバットにジュースを薄く敷き、氷の結晶が出来ていく様子を観察した。りんごとオレンジは、しばらくすると氷の結晶が出来始めたが、ぶどうはなかなか結晶が出来ず、最後まで結晶になることはなかった。

いただきま〜す♪  
うん！おいしい★



りんご味

オレンジ味

ぶどう味

### ★おやつの時間★

子どもたちが寝ている間に残りのジュースを使ってシャーベットを作った。作る時には、りんごが人気だったが食べる時にはぶどうを選ぶ子が多かった。「冷たい」「おいしいね」「シャリシャリしてる」と声が上がっていた。5回お代わりする子もいた。

う〜ん！サイコウ♪



おいしいよ〜★



つぎは、なににあじにしようかな？



## ⑦振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

◎初めは、どうやって探究活動に取り組んでいけばいいのだろうか...と悩んでいたが、アドバイザーの話聞き、これまで日々の保育の中で子どもたちと一緒に楽しんできたやり取りこそが「すくわくプログラム」に繋がること分かった。

◎活動を通して改めて、子どものワクワクした表情、いきいきと遊ぶ姿が素敵だと感じられた。また、保育者自身も子どもと一緒に活動を楽しむことを通して、ワクワクした気持ちを共有すると共に、何でだろう?と一緒に問いに気づき、考えるようになった。

◎この活動を通して、日々の遊びの中でも「やってみよう」「なんでだろう?」と子どもの興味が広がり、探求心を深めることにも繋がった。

◎2歳児だと活動に参加する子・関心を示さない子とに分かれるが、今年度の子は全体で取り組める活動が多かった。また、子どもの様子に合わせて活動の時間を調整するなど無理なく行うことが出来た。

◎氷が水から出来ていること、冷凍庫に入れると凍ること、色を混ぜると違う色が出来ることなど活動を通して学んだことを家庭で話す子が多く、保護者も「そんなこと知ってるんだ」と驚いていた。保育園だけでなく、家庭でも子どもの探求が広がる良い機会となった。